



## 家庭科をなぜ学ぶのか

浜松市小学校家庭科研究部、令和5年度の研修がスタートしました。今年度も家庭科だより「まど」を通して、情報を発信してまいりますので、よろしくお願いいたします。

さて新型コロナウイルス感染症が、5月8日から5類感染症に移行しました。これに伴い、感染が落ち着いている平時には、換気や手洗い等の感染対策をしたうえで、従来のようなグループでの調理実習が行えるようになりました。すでに、どの学校でも、野菜炒めやゆで野菜等の調理実習を行ったのではないかと思います。

これまでコロナ禍において、感染対策を優先し、集団での調理実習や被服実習を制限せざるをえない状況が続きました。調理実習では、友達と一緒に調理する体験が、授業で学んだ科学的な根拠を検証する場となり、豊かな学びに発展します。それが机上の学習だけとなると、体験から生まれる新たな気付きや発見がなくなるのではないのでしょうか。例えば、ゆでると野菜のかさが減るという実体験が、生よりもたくさんの量の野菜を食べられるという気付きにつながると思うからです。



さて、第1回研修会での小清水先生の講話の冒頭に、「家庭科をなぜ学ぶのですか？」という問い掛けがありました。「家庭科を学ぶのは、生活をよりよくする力をつけるため」としっかり応えたいと思いました。家庭科で学ぶ事実的な知識が、衣食住に関する実践的体験的な活動を通して、子供たちの健康で豊かなよりよい生活を支える力になっていきます。講話の中では、衣生活の「重ね着」の意味が取り上げられました。「空気の層で保温できる」ことを理解し、季節に応じた着方を工夫する力につながると嬉しいです。

また、今年度も引き続き、裁縫箱や練習布についてアンケートを実施し、子供たちが使いやすく、学習しやすい教材となるように考えていきたいと思っています。さらに夏の研修会では、家庭科ノートの活用の仕方についても研修できたらと思っています。

家庭科の授業を通して、子供たちと一緒に学び続ける教師を目指し、頑張りましょう。

小学校家庭科研究部顧問校長（浜松市立瑞穂小学校） 柳瀬 美穂

## 小学校家庭科研究部 第1回研修会報告

令和5年5月24日（水） 於：アイミティ浜松 ホール  
講話「家庭科における個別最適な学びと協働的な学びの展開」

静岡大学教育学部 小清水貴子准教授

家庭科における個別最適な学びとはどのようなものなのかを、体験を取り入れながら分かりやすくお話しいただきました。実際に大学で行っている授業の疑似体験をして、学生に戻ったような新鮮な気持ちで学ぶことができ、新たな気付きがありました。



### (1) 家庭科で育成する資質、能力

「どうして家庭科を学ぶのか」という問いに対し、「生活をよりよくしようと工夫する力をつけるため」であると、家庭科の目標をふまえて確認をしました。

### (2) 個別最適な学びの体験

ウォーミングアップでは、洗濯に関する事柄や裁縫道具の名前がクイズ形式で出題され、なぜそれを選択したのか等を周囲の人と話し合い、共有しました。

次に、本題の家庭科の指導内容については、小学校では生理保健的機能の観点から「衣服の着用と手入れ」と「快適な住まい方」の単元をセットで扱っていることを確認しました。涼しい着方と暖かい着方の違いを表にまとめる作業をし、「空気の層」がキーワードになることが分かりました。その事柄を子供たちに実感として理解させるためには、生活経験を知識につなげることが大切であることに気付きました。

最後に、ここまでの講義の中から「疑問のタネ」を見付け、それをスマートフォンを使って調べる作業を行いました。そして、調べたことを周囲の人と共有し、学びを広げました。

### (3) 個別最適な学びと協働的な学びの一体化

個別最適な学びは、自分のペースに合った学び方をする「指導の個別化」と、一人一人の興味により課題が異なる「学習の個性化」の側面があります。しかし、それだけでは学習が孤立化してしまうので、「協働的な学び」も必要になってきます。今後は単線型から複線型の授業展開が望まれ、発信するのみではなく対話することが大切になることが分かりました。

## 令和5年度 小学校家庭科研究部組織紹介

顧問校長	柳瀬 美穂（瑞穂小学校）	坪井 百合子（追分小学校）
部長	河村 鮎美（浅間小学校）	
副部長	小田 真弓（平山小学校）	原田 佳代子（庄内小学校）
	森田 絵奈（西気賀小学校）	

### 【部長あいさつ】

昨年度に引き続き、部長を務めさせていただくことになりました。今年度も「よりよい生活を自ら創り出す子供の育成」をテーマとし、先生方にとって、よりよい研修と情報交換の場となるよう研修を進めていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。 部長 河村 鮎美

### 【編集後記】

今年度も小学校家庭科部の家庭科だより「まど」を担当します。研修会の内容や各学校の実践を紹介していきます。ぜひ校内でも回覧し、充実した家庭科の授業づくりのために役立てていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。 まど担当 副部長 原田 佳代子